

オリンピックはスポーツの多様性を阻害するのか*

1240465 田上裕貴

指導教員 草川孝夫

研究背景

最新のオリンピック憲章は、参加者の「多様性」やその「調和」を謳っている。しかし、スポーツの多様性という点では、オリンピックがそれを阻害している可能性がある。オリンピックの対象競技が社会の注目を集めていく一方で、非対象競技は社会の関心の対象外となっている可能性があるからである。

研究目的

本研究では、多様性を謳っているオリンピックがスポーツの多様性を失わせてしまうという矛盾した事象が発生しているかどうかを検証する。

研究方法

スポーツ庁が毎年行っている「スポーツの実施状況等による世論調査」をもとに、様々なスポーツに対する関心や意欲、興味などに関するデータを分析対象とする。このデータをもとに、オリンピックの競技種目であるかどうかによって、観戦対象となるかや、自分で競技に参加する対象となるかに、どのような影響を及ぼしているのかを検証する。

分析結果

オリンピックの競技種目であるスポーツへの関心や意欲や興味は、オリンピックの開催年に増加することが明らかになった。それに対して、オリンピックの競技種目ではないスポーツの関心や意欲や興味は、オリンピックの開催年に減少することが明らかになった。

結論

オリンピックの競技種目であるかどうかによって、その種目への関心や意欲や興味が影響されてしまうという分析結果は、オリンピックがスポーツの多様性を阻害しうることを示唆する。オリンピック以外のどのような方法を用いれば、スポーツの多様性を維持しながら、マイナースポーツを含めたスポーツ全体での興味や関心を増加させることができるのかを、今後、明らかにしていく必要がある。

* 指導教員である草川孝夫先生に感謝したい。